

作成日 2019年7月1日

改訂日 2022年4月1日

## 安全データシート

### 1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	結晶質シリカ(クリストバライト)(Cristobalite)
製品コード	Cri. 21
会社名	一般社団法人 日本繊維状物質研究協会
住所	〒243-0211 神奈川県厚木市三田2-10-10
電話番号	046-243-1112
ファックス番号	046-241-5612
電子メールアドレス	<a href="mailto:info@iasfm.or.jp">info@iasfm.or.jp</a>
緊急連絡電話番号	046-243-1112
推奨用途及び使用上の制限	クリストバライト分析用標準試料としてのみ使用できる。

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	-
健康に対する有害性	生殖細胞変異原性 区分2 発がん性 区分1A 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1 (呼吸器)
環境に対する有害性	-

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、JIS Z 7252:2019で規定された「分類できない」又は「区分に該当しない」に該当する。なお、これらに該当する場合は後述の11項に記載した。

#### GHSラベル要素

##### 絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害
注意書き	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じんを吸入しないこと。 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
安全対策	取扱後はよく手を洗うこと。
応急措置	この製品を使用したときに、 <sup>気分又は呼吸器を</sup> ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当を受けること。 気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。
保管	施錠して保管すること。

廃棄	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
他の危険有害性	データなし

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	結晶質シリカ（クリストバライト）
別名	二酸化けい素、クオーツ、シリカ
濃度又は濃度範囲	100%
分子式（分子量）	SiO <sub>2</sub> (60.09)
化学特性（示性式又は構造式）	



CAS番号	14464-46-1
官報公示整理番号 (化審法)	1-548
官報公示整理番号 (安衛法)	情報なし
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

### 4. 応急措置

吸入した場合	「2. 危険有害性の要約」における応急措置も確認する空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	情報なし

### 5. 火災時の措置

消火剤	周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。  
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。  
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
保護手袋／保護衣／保護めがね／保護面を着用すること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。  
粉じんを発生させないようにする。

接触回避

情報なし

衛生対策

情報なし

保管 安全な保管条件

施錠して保管すること。  
保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。直射日光を避け、冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

$$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$$

E: 管理濃度 (mg/m<sup>3</sup>)

Q: 当該粉じんの遊離けい酸含有率 (%)

許容濃度 日本産衛学会  
(2021年度版)

0.03 mg/m<sup>3</sup>  
(吸入性結晶質シリカ)

ACGIH(2021年版)

TLV-TWA: 0.025 mg/m<sup>3</sup>

(結晶性シリカ、 $\alpha$ -クォーツ及びクリストバライト)

設備対策

粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。

<p><b>保護具</b></p> <p>呼吸用保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具</p>	<p>粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。</p> <p>手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。</p> <p>眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。</p> <p>必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。</p>
---	--

**9. 物理的及び化学的性質**

**物理的状态**

<p>形状</p> <p>色</p> <p>臭い</p> <p>臭いのしきい (閾) 値</p> <p>pH</p> <p>融点・凝固点</p> <p>沸点、初留点及び沸騰範囲</p> <p>引火点</p> <p>蒸発速度 (酢酸ブチル=1)</p> <p>燃焼性 (固体、気体)</p> <p>燃焼又は爆発範囲</p> <p>蒸気圧</p> <p>蒸気密度</p> <p>比重 (相対密度)</p> <p>溶解度</p> <p>n-オクタノール/水分配係数</p> <p>自然発火温度</p> <p>分解温度</p> <p>粘度 (粘性率)</p>	<p>固体 (20°C、1気圧) (GHS判定)</p> <p>乳白色 (GESTIS (2015))</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>合成非晶質シリカ (CAS番号:7631-86-9) として :4~9 (SIDS(2006))</p> <p>1713°C (ICSC (1997))</p> <p>2,230°C (ICSC (1997))</p> <p>不燃性 (ICSC (1997))</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>不燃性 (ICSC (1997))</p> <p>0 mmHg (20°C) (HSFS (2010))</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>水及び酸に不溶。 (ACGIH(2001))</p> <p>情報なし</p> <p>不燃性 (ICSC (1997))</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p>
---	--

**10. 安定性及び反応性**

<p>反応性</p> <p>化学的安定性</p> <p>危険有害反応可能性</p> <p>避けるべき条件</p> <p>混触危険物質</p> <p>危険有害な分解生成物</p>	<p>高温でも安定な物質。</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p>
--	---

**11. 有害性情報**

<p>急性毒性 経口</p> <p>経皮</p> <p>吸入：ガス</p> <p>吸入：蒸気</p> <p>吸入：粉じん及びミスト</p> <p>皮膚腐食性及び皮膚刺激性</p>	<p>GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。</p> <p>GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。</p> <p>GHS分類：区分に該当しない。 GHSの定義における固体である。</p> <p>GHS分類：区分に該当しない。 GHSの定義における固体である。</p> <p>GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。</p> <p>GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。</p>
---	---

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性	GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	GHS分類：区分2 <i>In vivo</i> では、本物質を用いてラットに13週間吸入ばく露し肺胞上皮細胞のhprt遺伝子突然変異を調べた試験で突然変異頻度の有意な増加が認められたとの報告がある (SIDS (2013))。それ以外に <i>in vivo</i> 、 <i>in vitro</i> のデータはない。以上より、データが限定されるものの、ガイダンスに従い区分2とした。なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。
発がん性	GHS分類：区分1A 多くの疫学研究結果において、本物質を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし、異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。一方、実験動物ではラットに本物質20 mg/匹を単回胸腔内注射後に生涯観察した結果、投与群では平均生存日数が597日で4例 (4/32例) に組織球性悪性リンパ腫が認められたのに対し、対照群では平均生存日数は717日で同タイプの腫瘍発生はみられなかった (0/32例) との報告がある (IARC 68 (1997)、ACGIH (7th, 2006))。以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質の粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997年に「グループ 1」に分類し、2012年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が結晶質シリカに対して、「第1群」に (産衛学会勧告 (2015))、ACGIHが2004年以降、本物質に対し「A2」に (ACGIH (7th, 2006))、NTPが1991年以降、結晶質シリカ (吸入性粒子径) に対して、「K」に分類している (NTP RoC (13th, 2014))。よって、本項は区分1Aとした。
生殖毒性	GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	GHS分類：分類できない データ不足のため分類できない。

**特定標的臓器毒性（反復ばく露）**

GHS分類：区分1（呼吸器）  
ヒトにおいて、本物質は石英と同様珪肺症が報告されている。また、実験動物では $\alpha$ -石英に比べてより炎症性で線維形成性があることが報告されている（ACGIH（7th, 2006））。  
したがって、区分1（呼吸器）とした。

**誤えん有害性**

GHS分類：分類できない  
データ不足のため分類できない。

**1 2. 環境影響情報**

**水生環境有害性（急性）**

GHS分類：区分に該当しない。  
非晶質シリカを用いて試験されたデータで、甲殻類（オオミジンコ）の24時間LL50 > 10,000 mg/L、魚類（ゼブラフィッシュ）の96時間LL0 = 10,000 mg/L（いずれもSIDS, 2013）であることから、区分に該当しない、とし

**水生環境有害性（慢性）**

GHS分類：分類できない  
データがなく分類できない。

**オゾン層への有害性**

GHS分類：分類できない  
データがなく分類できない。

**1 3. 廃棄上の注意**

**残余廃棄物**

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

**汚染容器及び包装**

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

**1 4. 輸送上の注意**

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、12項の環境影響情報とに基づいて、修正が必要な場合がある。

**国際規制**

国連番号	-
国連品名	-
国連危険有害性クラス	-
副次危険	-
容器等級	-
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない

**国内規制**

海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。
陸上規制情報	消防法、道路法に従う。

**特別安全対策**

該当しない

**その他（一般的）注意**

移送時にイエローカードの保持が必要。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
重畳物をト積みしない。

**緊急時応急措置指針番号**

**15. 適用法令**

法規制情報は作成年月日時点に基づいて記載されております。事業場において記載するに当たっては、最新情報を確認してください。

**労働安全衛生法**

名称等を表示すべき危険有害物（法第57条、施行令第18条別表第9）

名称等を通知すべき危険有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第57条の3）

**じん肺法**

法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業

**外国為替及び外国貿易管理法**

輸出貿易管理令別表第1の16の項

**16. その他の情報**

**参考文献**

各データ毎に記載した。

**[注意]** 本SDSはJIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。